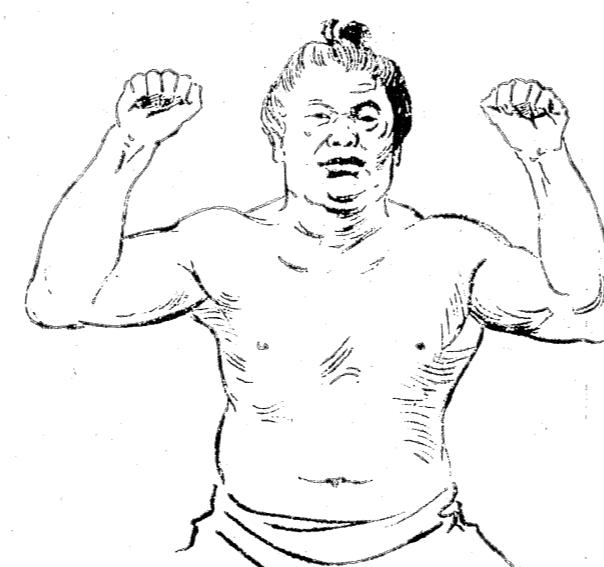
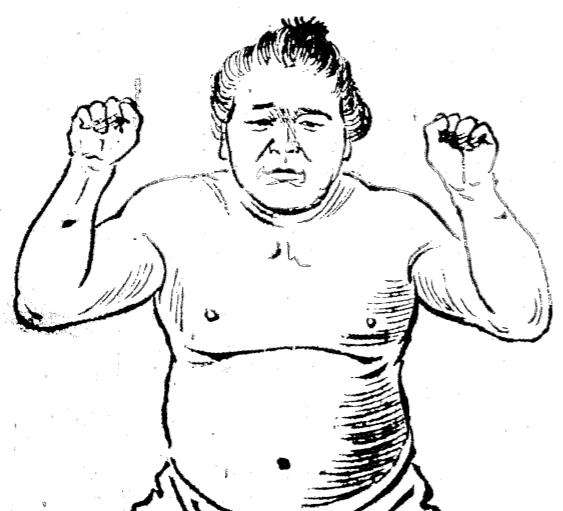


言說



朝西

可しと云ふに左らばとて近き邊に或る家を借受け山本氏は例の如く表裏庭見廻りて裏庭に幕を張り器械を据付け岡本氏はメートル尺を柱に懸け勝負量を注し又西洋術を様側に置きたり用意未だ終らざる中に早くも入來れるは梅ノなり雷の妻子にして勝格の逞しさと疾く好角家の間に知られ未參の櫻洞にて撫せらるゝ若者其大さくして駆えたるは常人と立列んで今更のやうに驚かる聲の儀透影すものと思ひたれば廻を持來らずと云ふに人を遣りて化粧廻を取せ先づ寫真を撮り次に肢體を量る「丁度兵隊検査のやうですね」此間も赤旗を斯ういふ事をされもした」折ど庚度氣なき言葉も頗る興ありし次には唐辛大根海、海山、鳳凰、小桜山、梅ヶ崎など數名引續いて入來れり人數多ければ言ふ言葉もさま／＼にて中にも氣作者の唐辛は「今度は己の番だ」とまだ前の者の済ませる内に寫眞場に飛出し又は「あれ計りは極下手です」と肺鼓器に十分恩を貰込み内に逃出す關取もあり「關取、斯う力を入れて、サーン」を指揮する社員の胸の長漸く五尺二三寸位なるに自から心付きて覺えず失笑するも此上なく面白かんき小錦は從者三名と共に入來りゆ當世第一の愛嬌力士、取廻を着けて立ちたる壯體の釣合善く皮膚の綺麗なるは力士社會に珍らしく唯歎目には今少し身手の欲しし肺鼓器に向ひ「今一度やつて見させう、喜歡をなんぞ喰べたとみろですかから好く恩が頂入りません」と言ふ言葉からか愛嬌あり大砲は一身強が悪いから御免を蒙らたいと再三辭ひと連れて試勘めて逃来れり言ふに違はず體操の割台にて四技量せたるが如く重量前半と七百と三百四百度以下三回度以下二回度以下



A black and white woodblock-style illustration of a muscular man flexing his biceps. He has a determined expression and is wearing a simple loincloth. The background is plain.